

鎌倉殿 中かりの地めぐり

静岡県 西部地域

遠州 歴史散策マップ

静岡県西部地域には、大河ドラマに関連する北条氏や源氏、平氏等に関わりの深い「ゆかりの地」が多く存在します。ゆかりの地や人物を通して歴史に触れてみてはいかがでしょうか。

1 湖西市 風炉の井




風炉とは茶の湯の席で湯を沸かす炉のことで、頼朝上洛の際に、この井戸水を茶の湯に使ったといわれる井戸の跡。市指定文化財。

湖西市新居町浜名1132

関連人物 源頼朝
P 無し

6 浜松市 蒲神明宮



伊勢神宮の荘園だった蒲御厨の中核社。同神宮にならい、現在でも式年遷宮を続けている。現地荘官だった蒲家当主が、源義朝と池田宿の遊女との間に生まれた源頼朝を御厨内で養育したと伝わる。このことから頼朝は「蒲冠者」と呼ばれる。境内に三重県石薬師寺から贈られた「蒲桜」が植えられている。

浜松市東区神立町471-1

関連人物 源頼朝
P 無し

2 湖西市 紅葉寺跡




頼朝が橋本宿に逗留した際に寵愛した長者の娘がのちに出家して妙相と名乗り、建てた寺と言われている。現在は建物等はなく史跡看板のみ。

湖西市新居町浜名1520付近

関連人物 源頼朝
P 無し

7 浜松市 中村家住宅




浜名湖と浜松城下を結ぶ水上交通の要衝にあつた中村家は、源頼朝の七男・正範を始祖とする。戦国時代には今川氏・徳川氏に仕えた。家康次男の結城秀康はここで誕生している。浜名湖南東岸に屋敷を構え、元禄元年(1688)の横火がある主屋は国の重要文化財。

浜松市西区雄踏町宇布見4912-1

関連人物 源頼朝
P 有り

3 湖西市 応賀寺



頼朝が寵愛したとされる橋本の長者の娘(妙相)に下賜したという扇子と団扇が残る。妙相は貞節を守って出家し寄進したという豊沙門天立像と願文が残る。ただし、長者の娘と妙相が同一人物かは史料の裏付けはない。

湖西市新居町中之郷68-1

関連人物 源頼朝
P 有り

8 浜松市 龍泉寺




源義朝が平治の乱(1158)で敗死した後、平家の追手から逃れた少年期の頼朝が蒲御厨内で匿われた屋敷跡と伝わる。邸内に伏見稲荷を祀ったことから「稲荷山」という。屋敷跡の一部に大永元年(1521)、龍泉寺が開創される。開基はさかのぼって源頼朝としている。頼朝近臣の勝又五郎の守本尊・摩利支天像を祀る。

浜松市南区飯田町990

関連人物 源頼朝
P 有り

4 湖西市 女屋跡




橋本宿は鎌倉時代東海道の宿場として栄えたところで、遊女が多かったことから花香の町といわれた。頼朝逗留の際に、多数の遊女が群参したことからこの名が残る。石碑説明板がある。源義朝の子の惠源太義平の母が橋本の遊女という説もある。

湖西市新居町浜名654-1 (パークキングパーク内)

関連人物 源頼朝
P 有り

9 浜松市 龍潭寺




保元の乱(1156)で、源義朝に従って平清盛らと戦った武将の中に、遠江国の「井八郎」がいた。後の井伊家にあたる。龍潭寺は井伊家歴代の菩提寺として創建、国の名勝に指定されている庭園などがある。寺の南側に井伊共公誕生井戸がある。

浜松市北区引佐町井伊谷1989

関連人物 井八郎(井伊八郎)
P 有り

5 浜松市 源頼朝別邸御茶屋跡




寿永年間(1182~1184)、漏冠者源頼朝公がこの地に別荘を設けた。南に佐鳴湖の清風を迎え、東西をめぐらす外堀が備えられた。廊内に樹木蔭翳として真に別邸の備えだった。頼朝公はこの地に来りて「御茶屋」と命名されたという。付近には、御茶屋跡に因んで命名された御茶屋敷がある。

浜松市中区富塚町2477、2472

関連人物 源頼朝
P 無し

10 浜松市 瑞雲院




山香荘に本拠を移した天野氏が菩提寺とした。境内に天野氏一族の墓地(浜松市指定史跡)が会下山から移設されている。山門と鐘楼は浜松市指定有形文化財。

浜松市天竜区春野町堀之内992-1

関連人物 天野遠景
P 有り

11 磐田市 伝 『熊野の母墓及び熊野の墓』(行興寺の宝篋印塔)



池田の庄司・藤原重徳の娘が15歳を迎え、将軍・平宗盛に召し出されて京に上り、宗盛の寵愛を受けるが、池田の母親が病氣になり、帰郷を願い出るが許されなかった。京都東山の観桜の席で縁だいたいにせんどの春も惜しけれどなれし蓮の花や散るらん」の一首が宗盛の心を動かす。池田への帰郷を許された。母親は全快したが、彼女が京へ戻ることはなかった。

磐田市池田330

関連人物 平宗盛
P 無し

15 磐田市 鶴ヶ池



源頼朝の兄・朝長を祀る袋井市友永・積雲院に立ち寄った婦人、岩井村で鶴が飼われていることを知り、父や兄たちの追善供養のため、岩井池で放生会を行う。この時、鶴の足に金の札を付けた。この後、岩井池を鶴ヶ池と呼ぶようになった。

磐田市岩井

関連人物 源頼朝、源朝長
P 有り

12 磐田市 千手前の墓(傾城塚)




幕府に捕らえられ、鎌倉へ移送後、囚われの身となった重衡を源頼朝は手厚くもてなす。その際、身の回りの世話をしたのが、千手の前であった。その後、東大寺の僧侶たちの訴えにより、奈良に戻され、斬首される。千手の前は重衡の死を嘆き、やがて没する。

磐田市野箱

関連人物 平重衡
P 有り

16 袋井市 積雲院




源頼朝の兄「源朝長」の墓所として知られ、境内には源義朝・源義平・源朝長の供養塔が祀られている。源朝長が平家討伐後の上洛時に父と兄の墓に参拝し、菩提を弔うために寺を建立したと伝えられ、その折、墓のしに松を植えたこと伝え、地元では馬繁ぎの松の伝承も伝えられている。

袋井市友永648

関連人物 源義朝、源義平、源頼朝、源朝長
P 無し

13 磐田市 千手寺



頼朝が12人の美女を揃えたという記録にできる「1番は千寿の前、2番は熊野の娘待従…」とあるように日本一の美女といわれる「千寿の前」ゆかりの寺。長者の娘として静岡市手越で生まれた千手は、千手寺に祀られている千手観音にお参りして授かった子ということから「千手」と名付けられました。

磐田市千手堂637-1

関連人物 平重衡
P 無し

14 磐田市 鎌田政清の供養塔



平治の乱で敗れた義朝とその子・朝長、頼朝らは、情勢が不利となり、京を退出。尾張国野間(愛知県知多郡美浜町字野間)まで来た時、政清の舅・長田忠致とその子景致に謀られ、義朝、政清は暗殺。当地が鎌田氏の領地の一つだったとか、鎌田政清の郎党の出身地だったとの話がある。

磐田市鎌田

関連人物 源義朝、鎌田政清
P 無し

17 袋井市 御沙汰神社




源頼朝の兄「朝長」を祭神として祀る社で、ご神体は馬上の朝長像とされている。朝長の供養のために始まったと伝える徳念仏「源朝長公御祭礼」(袋井市指定文化財)がお盆の8月15日に当社から供養塔のある積雲院まで行列する。

袋井市友永965

関連人物 源朝長
P 無し

18 袋井市 油山寺




真言宗の古刹。油山寺本堂前に建つ油山寺三重塔(国指定の重要文化財)は3代目の塔で江戸時代初期に建立されたものです。戦国時代に焼失した2代目の塔を再建を發願し寄進したのが源頼朝と伝えられている。

袋井市村松1

関連人物 源頼朝
P 有り

20 袋井市 七ツ森神社




片葉の葺の言い伝えが残る。源氏と平家が争っていた時、源氏の武将に、一ヶ谷の戦いで平家盛の首を取ったことで知られる熊谷次郎直実という大将がおり、直実が東海道を西へ行く途中七ツ森の沼のほとりて休憩した。直実の馬は片方の葉の葉だけ食べてしまい、それかという七ツ森の葺は片方しか葉が出ない片葉の葺になったと伝えられている。

袋井市国本2568

関連人物 熊谷直実
P 無し

19 袋井市 久野城址



久野城は、明応年間(1492~1501)に久野宗隆によって築城された城郭。宗隆は可睡斎の開基としても知られる人物。久野氏は鎌倉時代初期に始まり、初代は宗仲という人物と伝えられている。宗仲は原清行の子で、原氏は御家人で、原田荘細谷郷(現掛川市)の地頭であったと伝えられている。

袋井市鷺巣

関連人物 北条義時、和田義盛、久野宗仲
P 有り

21 袋井市 大宮神社




大宮神社境内に祀られていた赤蜂大明神の言い伝えに平重盛が登場する。富士川の合戦に赴く平氏の大将、平重盛は新池村で病のため動けなくなるとなり、家田は村人に病魔退散の効能のある社を尋ねると、村人から赤蜂大明神を紹介された。社で神様に祈願すると程なく病魔は退散したため、社殿を立派にして欲しいと金子を村人に渡したと伝えられている。

袋井市新池2055-1

関連人物 平重盛
P 無し

22 森町 友田家住宅



友田家の祖先は伊勢平家で、鎌倉神社造営の際に出雲の刀鍛冶となり、平家滅亡後、亀久保に土着したと言われている。この家は平家の落人としてこの地に移って以来古い家系を持ち、江戸時代元禄年間建てられた。国指定重要文化財。

森町亀久保336

関連人物 平重盛
P 有り

23 掛川市 和田義盛の墓




和田地区には和田義盛の出生地であるとの伝承が残っており、「和田の塚」と呼ばれる跡が残っている。「郷里雜記」に「遠江古蹟圖」には、「和田の塚」に関する記述がみられ、「遠江古蹟圖」では、塚の中に二つ五輪塔が並んでいること、法名銘文が刻まれていることから誰の墓碑かは分からないこと、義盛に仕えた家臣が主君である義盛の碑を建立した可能性を指摘している。

掛川市上内田字和田

関連人物 和田義盛
P 無し

24 菊川市 横地氏城館跡




横地氏は保元の乱では源義朝に、治承平治の乱では頼朝にそれぞれ従っており、鎌倉幕府成立後は有力御家人として鎌倉を中心に活動していたことが『吾妻鏡』に散見される。有力武士である横地氏の本拠地跡である。高田大屋敷遺跡とともに菊川城館遺跡群として国の史跡に指定されている。

菊川市東横地

関連人物 横地長重
P 有り

25 御前崎市 朝夷氏墓地




父・和田義盛が北条氏打倒を企てて起こした和田合戦で、最も大きく奮戦した鎌倉初期の武将である朝夷三郎義秀の墓(石塔)と伝えられている。

御前崎市上朝比奈字宮ノ谷

関連人物 朝夷三郎義秀
P 無し

26 御前崎市 中尾殿之谷遺跡



平安から鎌倉時代の灰桶陶器や山茶碗が出土している。西方丘陵に山原城跡があり、「殿ノ谷」の地名から城主の屋敷跡との伝承がある。また、今は廃寺であるが、近くの聖道寺に伝わる「正道寺縁由記」には、この寺の大旦那は山原城主で、元弘・建武の戦い(1331年~1334年)で落城したと記されていることから、中尾殿之谷遺跡は鎌倉御家人の新野氏の屋敷跡と伝えられている。

御前崎市新野字坂田

関連人物 新野太郎、新野右馬允、新野四郎朝繁
P 有り

